

平成28年度  
**市立三次中央病院業績集**

---



## 市立三次中央病院 病院長 中西 敏夫

平成28年度は、熊本地震（4月14、16日発生）で幕を開けました。東日本大震災（平成23年3月11日）からわずか5年です。近い将来発生が予測されている首都直下型地震や南海トラフ巨大地震に対してはどのような防災・減災対策が取られているのでしょうか。

今年の業績集、巻頭の写真はJR三次駅です。三次市は都市のエントランスとしてまちのにぎわいを創出するため、国の交付金（都市再生整備計画事業）を活用し平成18年から三次駅周辺整備事業に着手しました。旧駅舎（昭和53年建築）は取り壊され、平成27年2月に完成しています。駅前の整備事業は、駅前広場、交通センター、駅西公衆トイレが

完成し、平成27年10月には三次駅周辺整備事業竣工記念式典が行われました。写真の三次駅右手に交通センターがあり、高速バス、市内のバスがすべて発着しています。

三次駅は芸備線、福塩線、三江線が乗り入れ県北の拠点駅となっており県北では唯一のJR西日本の直営駅です。緑の窓口もキヨスクもあります。しかし、一日の平均乗車数は昭和63年の1400人をピークに減少し平成27年600人となり、三江線の廃止が決定されたばかりです。

平成28年業績は診療報酬改定の影響を少なからず受けました。7対1病床削減に向けて要件の厳格化が図られ、重症度、医療・看護必要度の新基準を満



たすことが困難となり2病棟を10対1としました。また重症度の算定のため在院日数の短縮が図られ平均在院日数は16.5日から15.2日に減少し病床稼働率は昨年度の86.2%から85.0%と低下しています。とくに平成28年は8月から翌1月までの期間は入院患者数の減少があり、手術件数等にも影響が出て病院収支は昨年と比べ大きく減収となりました。

それでもその他診療統計は大きな変化はなく、外来患者数は一日平均692人（昨年度696人）、また平均紹介率は59.7%、逆紹介率は85.6%と昨年を上回っており、地域支援病院指標を十分クリアしています。

委員会・チーム活動は年々活動の範囲を広げてい

ます。とくに緩和ケアチームの活動は緩和ケアセンターの開設により入院、外来からさらに地域へと広がっています。平成28年11月10日に緩和ケアセンター開所記念講演会を開催しました。広島県緩和ケア支援センター長の本家好文先生には「広島県における緩和ケアの現状と今後の展望」と題して特別講演をいただきました。中山間での在宅を含めた緩和ケアシステム構築を目指して行きたいと思っています。

業績集の目玉はやはり学術業績です。院長として診療実績は毎月把握していますが職員の学術業績は業績集の編纂時にはじめて詳細が示されます。学会・研修会等の費用援助は県内随一と自負しています。毎年業績が上がっていくことを期待しています。

# 1年のできごと



H28.4.18～ 熊本地震によるDMAT派遣



H28.5.9～  
熊本地震による救護班派遣  
(現地での活動状況)



H28.4～ 新人看護師研修



H28.5月～8月  
高校生ふれあい  
看護体験

H28.7.11  
院内保育所  
ミニトマトの収穫





H28.7.28 TQM活動発表会



H28.8.27 高校生医療体験セミナー



H28.10.1 緩和ケアセンター開設



H28.10.27 総合消防訓練

# 医療機器整備



体外衝撃波結石破碎装置



臨床化学分析装置



全自動化学発光免疫測定装置